

# 平成25年度採用 豊岡市臨時職員募集

職 種	募集人数	応募資格	職務内容など	勤務条件
幼稚園教諭	3人程度	有効な幼稚園教諭普通免許を有する方または平成25年3月31日までに取得できる方	幼稚園または認定こども園での幼児教育業務など	賃金：日額7,500円(クラス担任は日額8,100円) ※経験年数等で月額の場合あり 勤務：週5日(1日7時間45分) 休日：土・日曜日の週2日
保育士	4人程度	保育士証の交付を受けている方または平成25年3月31日までに交付を受けられる方	保育園または認定こども園での保育業務など	賃金：日額7,500円(クラス担任は日額8,100円) ※経験年数等で月額の場合あり 勤務：週5日(1日7時間45分) 休日：日曜日および他の1日の週2日

《雇用期間》 4月3日～9月30日(必要に応じて6カ月間延長)  
 《選考方法》 面接試験(日時、場所は申込受付時に連絡します)  
 《受付期間》 2月25日(月)～3月8日(金)午前8時30分～午後5時15分  
 ※土・日曜日を除く

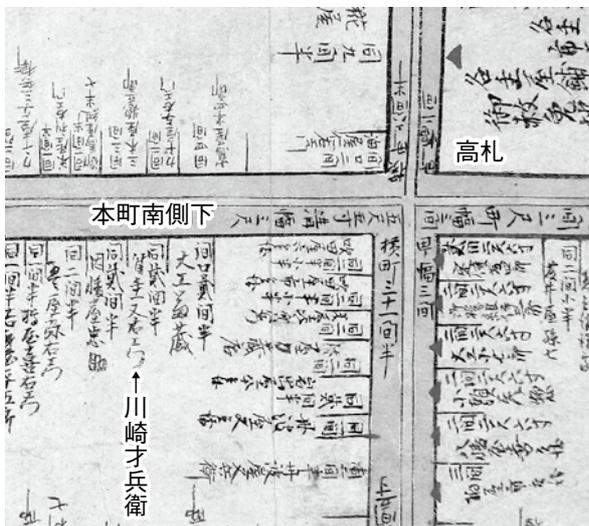
《申込方法》 申込書(職員課に備付けのもの)に必要な事項を記入の上、資格・免許などの写しを添えて提出してください(持参希望)。  
 ※応募は上記職種のうちの1職種に限り  
 ます。  
 《申込み・問合せ》 職員課(東庁舎別館2階)  
 ☎23-1326

## NHK大河ドラマ「八重の桜」③ 「川崎尚之助」ゆかりの場所

### 生家は町屋のど真ん中

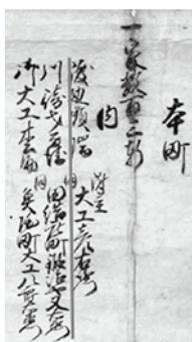
尚之助の幼年期の手掛かりの一つが、彼の生家です。分限帳には「本町高札南側下」と書かれています。「高札」とは現在の掲示板で、本町の高札は現在、出石印刷のある四つ角に設置されていました。「下」とは東西に延びる本町を大手筋を中心に東を上、西を下に分けた区割りで、ただけで19戸が軒を連ねていました。

絵図1には、当時の住人の名前と住居の間口が書かれています。その中に川崎家当主・川崎才兵衛の名前があります。図2には「川崎才兵衛同(附主)田結庄町鍛冶や又右衛門」とあります。これは絵図1にあり、ここが尚之助の生家と考えられます。



▲文化7(1810)年当時の川崎家(絵図1)

尚之助が住んでいた近所には大工、畳屋、傘屋など職人や商人が軒を連ねています。武家町で藩士の子どもたちの中で育った八重と違い、彼を取り巻く環境はもつと多彩で自由であったと思われる。後年、江戸の大木塾で同門である加藤弘之はその回想録で「蘭学などする者夷狄同様な者として誠に受けが悪うございました」と言っていますが、町人の町で育った尚之助には、



▲図2

そんなこだわりはなかったのではないのでしょうか。川崎家が、出石藩の蘭学の先駆けとされる桜井東門やその一族と親しかったのも、蘭学を学ぶのに幸いしたことでしょう。戊辰戦争時に、尚之助は会津領内の寺院の鐘を改鑄して大砲を鑄造し敵を迎え撃つという戦略を上申します。これは、彼が幼時に、異国船からの海岸防備のため、出石藩内の梵鐘が集められ、大砲を鑄造しようとしていたことを記憶していた可能性があります。藩の砲術を西洋流にする、しないで大もめた出石藩も、幕末には洋式銃を購入し西洋式の軍事訓練を藩校弘道館で繰り返し行っています。明治に入ると、藩の女学校も設けられ、藩士の娘はピストルの撃ち方を習うべき事とされてきました。八重の姿と少し重なるようで興味深いです。

《問合せ》 出土文化財管理センター ☎2610033

ふるさとづくりのために  
**環境経済に取り組んでいます！**

ウッドプラン(日高町水上)

―建築端材を活用したオーダーメイド家具付き住宅―

「環境を良くする事業で経済効果が生まれることにより、環境と経済は互いに発展し合う」。このような環境経済型事業に取り組み企業にインタビューします。

《問合せ》経済課経済係 ☎23-4480

28



―建築端材を活用した家具作りを始めたきっかけは？

大手のハウスメーカーとは違い、お客様が当社で建てる家は、全て注文住宅です。意向を聞きながら家を建てるので、好みの家に仕上がります。多くの建築端材が出ます。この端材を「もったいない」と思ったことがきっかけです。一般的には、こういった端材は、ペレットなどの燃料に



▲オーダーメイド家具

加工されるか、焼却処分されます。その前に、もう一度木材として生かすことができないかと考え、オーダーメイド家具の製作を始めました。

―端材を活用した家具を作るメリットは？

家との統一感が出ることで、家と同じ材料を使います。家で、内装と非常によく合い、とても美しく見えます。また、オーダーメイドなので、お客様の好みの家具を作れます。さらに、端材が減りますので、処分費が安くなります。

―お客様の反応は？

「建築資材を使い切る」ということの意味は、まだまだ



▲デコレーションウォール

認知されていませんが、最近では、口コミで当社の家具を知り、買われる方もいます。

当社では、認知度を高めるために、展示会などの機会を通してPRしています。

また、当社で家を発注されたお客様に、端材を活用した「デコレーションウォール」を取り付けてもらうことで、他の家との差別化を提案しています。

―今後の展開は？

当社の強みは、家はもちろん、家具も含めて自社で製作することで、家をトータルコーディネートし、お客様だけのオリジナル空間を提案できることです。この強みを生かして、但馬地域以外にも商売を広げていきたいです。

また、端材で作った家具や生活小物を、インターネットで販売したいと考えています。

こうして経済を活性化することで、地域や業界が潤い、雇用を生み、技術を承継していきたいと思っています。

※詳細はホームページをご覧ください。

<http://woodplan-shimada.com/>

com/

「みやぢ」南極へ行く 14

来た時よりもきれいに

平成23年12月23日、「みやぢ」こと宮下泰尚隊員(豊岡市職員)が「第53次南極地域観測隊越冬隊員」として南極昭和基地に立ちました。豊岡市民にとって、豊岡にいながら世界につながるという新しい夢の始まりです。世界に飛び出した宮下隊員のレポートを紹介いたします。

《問合せ》植村直己冒険館 ☎44-1515

「しらせ」が昭和基地手前18キロメートルで止まりました。さらに、海水厚は十分(約6メートル)あるにもかかわらず、海水の表面が池と化し、雪上車が「しらせ」に接近できない事態が起きました。

「いよいよ私の任務の仕上げ(日本へ持ち帰る廃棄物の積み込み)の時がきた」と思いきや、物資輸送手段がヘリだけになり、1年かけて整理した廃棄物のほとんどを持ち帰ることができなくなりました。昭和基地では年間約55

0トンの燃料を使用します。昨年輸送できたのが約350トン、私たちはすでに備蓄分の燃料を使い果たそうとしていました。このため輸送物資は54次越冬隊の食料や燃料が優先されました。特に今まで

継続してきた観測を途切れさせないためにも、命綱である燃料をできるだけ運びました。廃棄物を持ち帰れないのは心残りですが、多くの廃棄物の整理ができ、「来た時よりもきれいになった」と自画自賛しています。

2月1日に越冬交代式を済ませ11日に「しらせ」に乗り込みました。3月下旬、1年4カ月ぶりに帰国します。

※詳細は、ブログ「植村直己冒険館職員南極へ行く」で紹介しています。

<http://blog.ap.teacup.com/boukenkan/>

com/boukenkan/



▲18km先の「しらせ」